

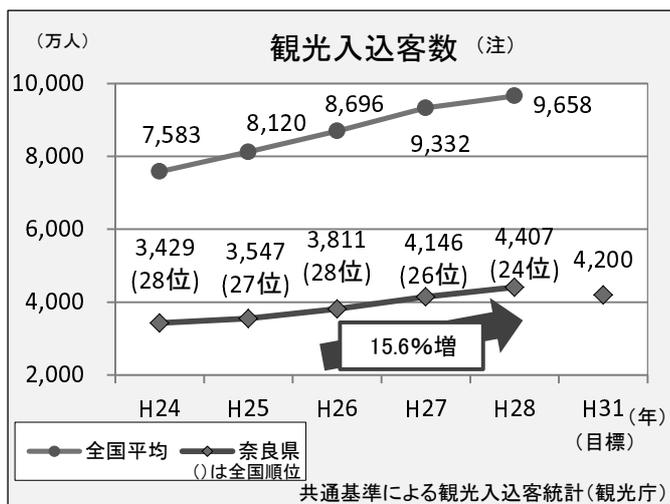
3 観光の振興

目指す姿

宿泊客を県内に呼び込み、観光消費額を増やすため、奈良の奥深い魅力をブランディングし、ゆっくりじっくりと楽しめる観光県を目指します。

主担当部局(長)名
観光局長 折原 英人

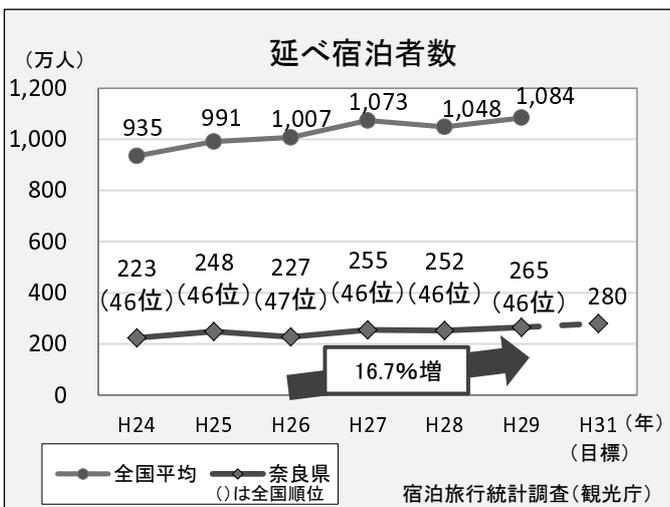
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	平成31年までに、観光入込客数を4,200万人にします。(H26年:3,811万人)
成果	観光キャンペーン等の実施により、平成28年の観光入込客数は、平成26年から15.6%増加し4,407万人となり、平成31年目標の4,200万人を上回りました。

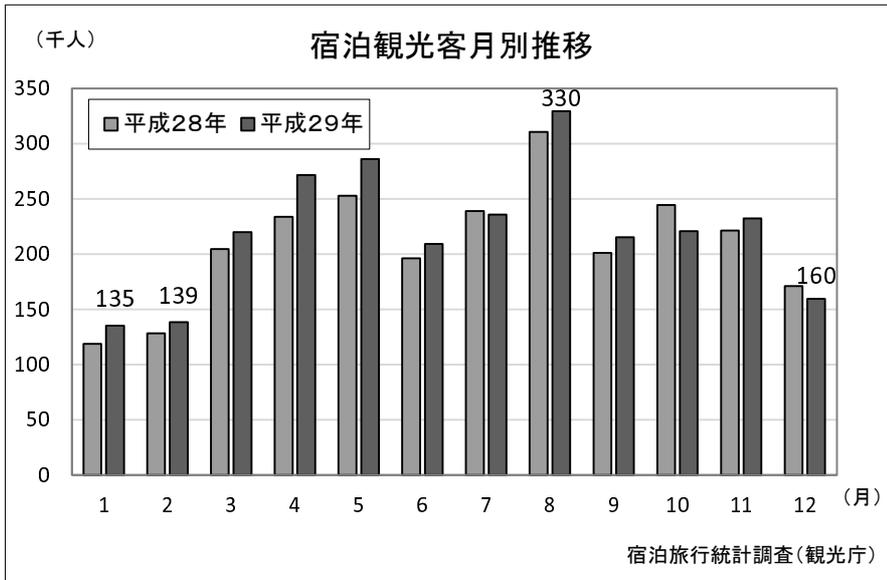
(注)全国順位は平成30年6月29日観光庁公表時点のものであり、都道府県ごとに公表され次第、順位・全国平均値は変動します

〈公表都道府県数〉
 H24:43都道府県
 H25:43都道府県
 H26:43都道府県
 H27:41都道府県
 H28:39都道府県

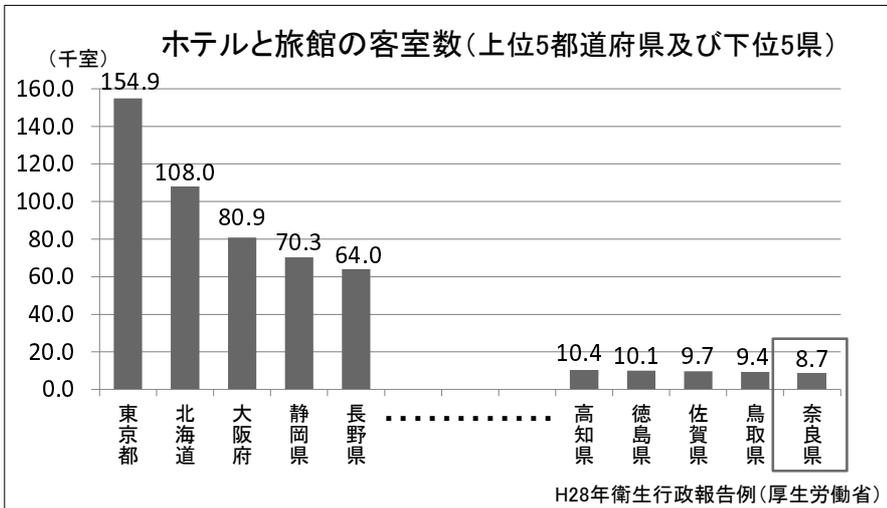


目標	平成31年までに、延べ宿泊者数を280万人にします。(H26年:227万人)
成果	奈良県への宿泊観光客誘致活動やオフ期対策等の実施により、平成29年の延べ宿泊者数は、平成26年から16.7%増加し265万人となり、目標に向かって順調に推移しています。

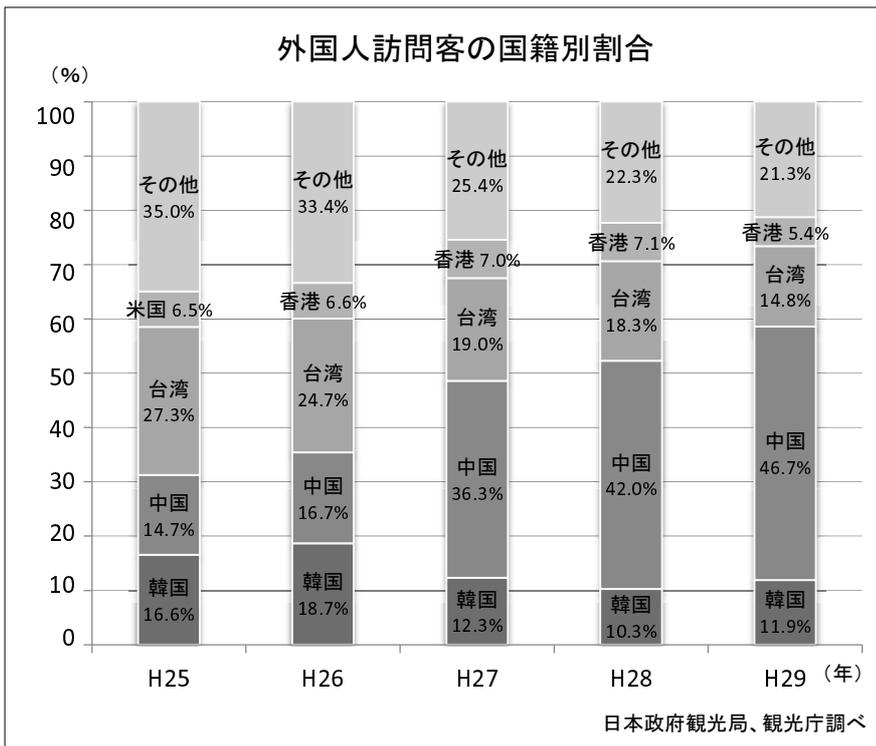
2. 現状分析



・宿泊観光客数が最も多い月は8月で、次いで5月、4月となっています。
 ・宿泊観光客数が最も少ない月は1月で、次いで2月、12月となっています。いずれも8月の1/2以下にまで落ち込んでいます。
 (H29年1月:135千人、2月:139千人、8月:330千人、12月:160千人)(→戦略2)



平成28年の宿泊施設の客室数は、ホテル(3,860室)と旅館(4,830室)を合わせて8,690室で、全国最下位です。(→戦略4)



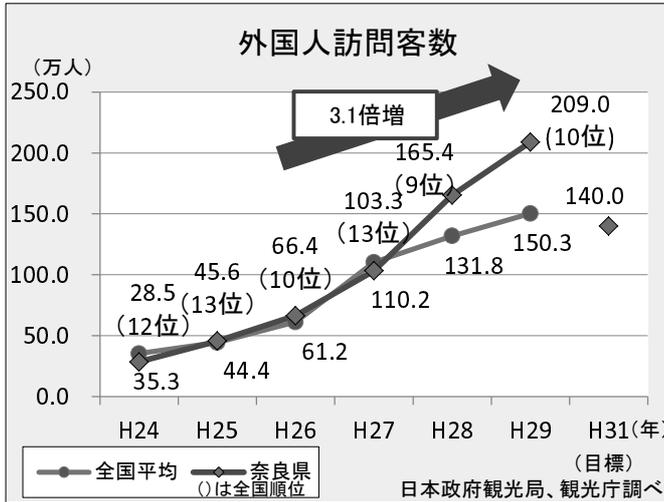
奈良県への外国人訪問客の国籍別割合は、中国(46.7%)、台湾(14.8%)、韓国(11.9%)、香港(5.4%)で全体の78.8%を占め、中国人の訪問割合が年々増加しています。(→戦略1)

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 東京オリンピック・パラリンピック後を見据え、外国人誘客の地力をつけることを中心に、観光誘客の強化に取り組みます。(誘客のためのプロモーション)

主担当課(長)名 観光プロモーション課長 街道 互

戦略目標 ①平成31年までに、外国人訪問客数を140万人にします。(H26年:66.4万人)



目標 平成31年までに、外国人訪問客数を140万人にします。(H26年:66.4万人)

成果 海外向け情報発信や受け入れ環境の整備等により、平成29年の外国人訪問客数は、平成26年の3.1倍の209万人と大幅に増加し、平成31年目標の140万人を大きく上回りました。

主な取組指標等

首都圏等からの誘客の促進(①)		
奈良まほろば館の入館者数		
207千人 (H24年度)	➡ 26.6%	262千人 (H29年度)

積極的なMICE誘致の推進(①)		
コンベンション誘致件数		
248件 (H24年度)	➡ 5.2%	261件 (H29年度)

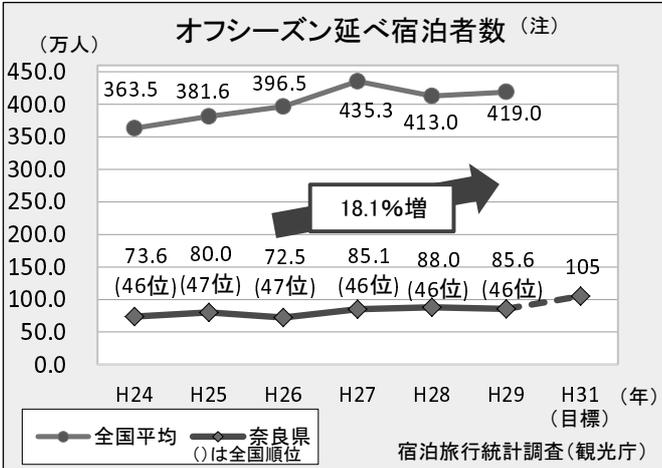
団体旅行・修学旅行の誘致(①)		
訪日教育旅行受入人数		
442人 (H24年度)	➡ 4.0倍	1,771人 (H29年度)

国際交流の推進(①)		
東アジア地方政府会合 会員地方政府数		
64地方政府 (H24年度)	➡ 9.4%	70地方政府 (H29年度)

戦略2 オフシーズンの宿泊観光客を増やすため、イベントをさらに発展・充実させるとともに、新たな冬の周遊型観光の展開を図りながら、観光消費に繋がる誘客を促進します。(オフ期イベントの活性化)

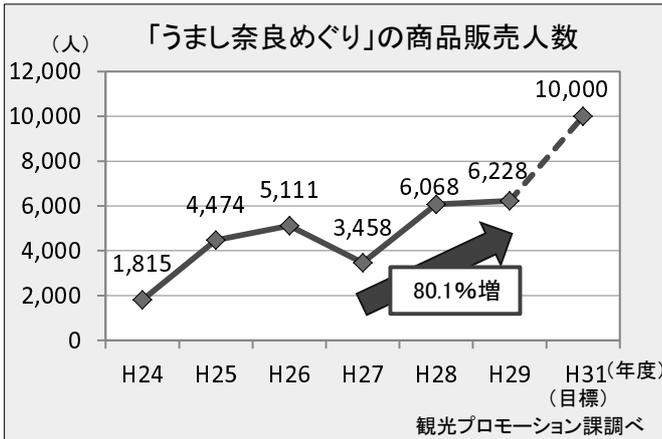
主担当課(長)名 観光プロモーション課長 街道 互

戦略目標	①平成31年までに、オフシーズン(12月～2月、6月・7月)延べ宿泊者数を105万人にします。(H26年:73万人) ②平成31年度までに、「うまし奈良めぐり」商品販売人数を10,000人にします。(H27年度:3,458人)
------	--



(注)平成29年は速報値を含むため、数値が変更になることがあります。

目標	平成31年までに、オフシーズン(12月～2月、6月・7月)延べ宿泊者数を105万人にします。(H26年:73万人)
成果	オフ期イベント等の実施により、平成29年のオフシーズンの延べ宿泊者数は、平成26年から18.1%増加し85.6万人となりました。



目標	平成31年度までに、「うまし奈良めぐり」商品販売人数を10,000人にします。(H27年度:3,458人)
成果	旅行商品説明会をはじめ様々な機会を通じて旅行会社へのセールスを行ったことにより、平成29年度の「うまし奈良めぐり」(注)の商品販売人数は、平成27年度から80.1%増加し6,228人となりました。 (注)「うまし奈良めぐり」…観光オフシーズンの観光客誘客をはかるキャンペーン

主な取組指標等

オフシーズンにおける誘客促進(①)		
社寺等と連携した旅行商品の販売数		
1,815人 (H24年度)	➡	13,319人 (H29年度)
7.3倍		

オフシーズンにおける誘客促進(①)		
若草山焼きの観光客数		
180千人 (H24年度)	➡	180千人 (H29年度)
増減なし		

オフシーズンにおける誘客促進(①)		
「なら瑠璃絵」来場者数		
371千人 (H24年度)	➡	369千人 (H29年度)
0.5%		

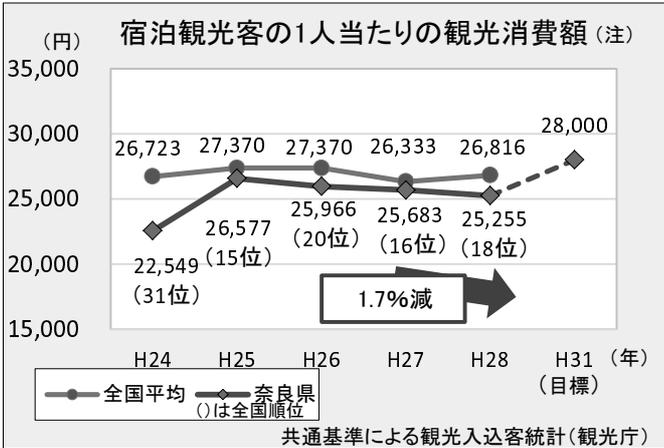
奈良だからこそできる音楽祭の開催(①)		
「ムジークフェストなら」来場者数		
38千人 (H24年度)	➡	124千人 (H29年度)
3.3倍		

スポーツツーリズムの推進(①)		
全国高校ラグビー出場校の県内での延べ宿泊者数		
5,212人 (H24年度)	➡	6,194人 (H29年度)
18.8%		

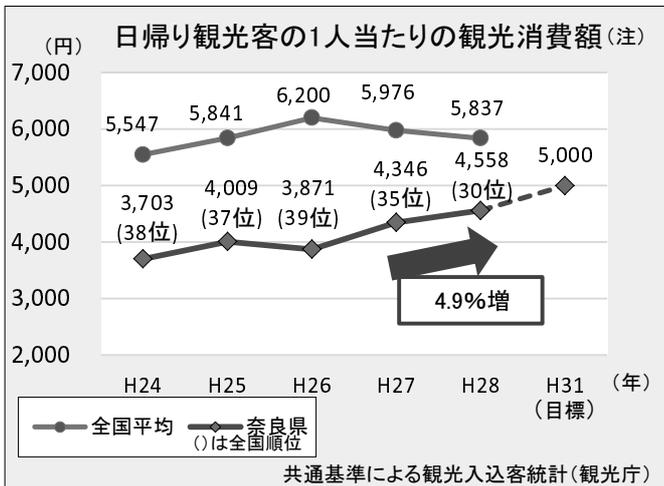
戦略3 観光客の満足度を上げるため、特に、「食」「宿泊」「土産物」の各分野の観光事業者のおもてなし力を向上させます。(ホスピタリティの向上)

主担当課(長)名 **ならの観光力向上課長 福井 弘人**

戦略目標	①平成31年までに、宿泊観光客の1人当たりの消費額単価を28,000円にします。(H27年:25,683円) ②平成31年までに、日帰り観光客の1人当たりの消費額単価を5,000円にします。(H27年:4,346円)
------	---



目標	平成31年までに、宿泊観光客の1人当たりの消費額単価を28,000円にします。(H27年:25,683円)
成果	平成28年の宿泊観光客1人当たりの観光消費額は平成27年から1.7%減少し、25,255円となりました。



目標	平成31年までに、日帰り観光客の1人当たりの消費額単価を5,000円にします。(H27年:4,346円)
成果	平成28年の日帰り観光客1人当たりの観光消費額は平成27年から4.9%増加し、4,558円となりました。

(注)全国順位は平成30年6月29日観光庁公表時点のものであり、都道府県ごとに公表され次第、順位・全国平均値は変動します。
 <公表都道府県数>
 H24:43都道府県
 H25:44都道府県
 H26:43都道府県
 H27:41都道府県
 H28:39都道府県

主な取組指標等

外国人観光客向けの受け入れ・おもてなし環境の整備(①)		
多言語コールセンターの登録数		
233件 (H26年度)	➡ 2.5倍	571件 (H29年度)

外国人観光客向けの受け入れ・おもてなし環境の整備(①)		
「なら燈花会」来場者数		
862千人 (H24年度)	➡ 13.1%	975千人 (H29年度)

外国人観光客向けの受け入れ・おもてなし環境の整備(①)		
平城宮跡内で開催されたイベントの来場者数		
141千人 (H24年度)	➡ 16.3%	118千人 (H29年度)

奈良のおいしい「食」づくり(①,②)		
奈良フードフェスティバル 来場者数		
7.4千人/日 (H24年度)	➡ 39.2%	10.3千人/日 (H29年度)

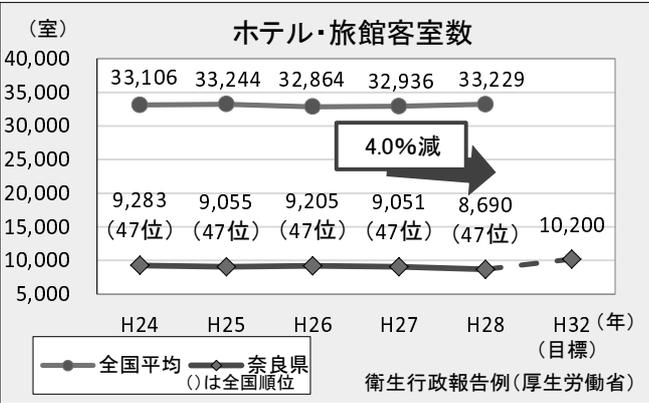
数値で表せない成果

観光客の接遇に携わる観光事業者等を対象に、おもてなし・サービス向上に関する研修を実施しました。(平成30年度 観光サービス向上委員会ですらなるサービス向上について検討し、研修等を行う予定) (①,②)

戦略4 意欲ある宿泊施設の取組を支援するとともに、誘致に向けた取組を強化し、宿泊施設の質と量を充実させます。(宿泊施設キャパシティの向上)

主担当課(長)名 インバウンド・宿泊戦略室 岡本 厚也

戦略目標	①平成32年までに、県内宿泊施設の客室数を10,200室にします。(H27年:9,051室)
------	--



目標	平成32年までに、県内宿泊施設の客室数を10,200室にします。(H27年:9,051室)
成果	新規に開業するホテルがある一方、廃業する旅館があり、平成28年のホテル・旅館客室数は平成27年から4.0%減少し、8,690室となりました。

主な取組指標等

宿泊施設の量・質の向上(①)		
制度融資(宿泊関連)利用者数		
3人 (H24年度)	➡ 3.0倍	9人 (H29年度)

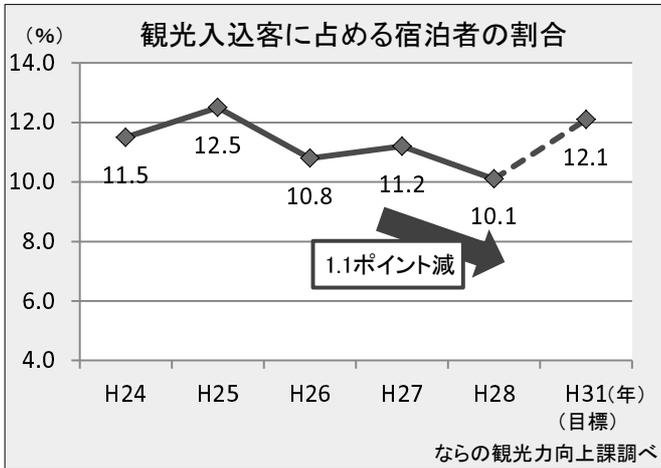
宿泊施設の量・質の向上(①)		
奈良県内のホテル数		
58施設 (H23年度)	➡ 8.6%	63施設 (H28年度)

宿泊施設の量・質の向上(①)		
自転車の屋内保管や自転車搬送サービス等が可能な「サイクリストにやさしい宿」認定数		
50件 (H24年度)	➡ 10.0%	55件 (H29年度)

戦略5 奈良を訪れた観光客が快適に周遊できる案内環境を整えるとともに、「本物の奈良」に感動されることによりファン、リピーターを増やします。(案内力・説明力の向上)

主担当課(長)名 **ならの観光力向上課長 福井 弘人**

戦略目標	①平成31年までに、観光入込客数に占める宿泊者の割合を12.1%にします。(H27年:11.2%)
------	---



目標	平成31年までに、観光入込客数に占める宿泊者の割合を12.1%にします。(H27年:11.2%)
成果	平成28年の観光入込客に占める宿泊者の割合は、平成27年から1.1ポイント低下し、10.1%となりました。

主な取組指標等

案内力・説明力の向上(①)		
奈良県公認ツアーエキスパート認定者数		
4人 (H27年度)	➡ 3.5倍	14人 (H29年度)

奈良盆地周遊型ウォークルートの造成(①)		
「歩くなら」HPアクセス件数		
650千件 (H25年度)	➡ 99.5%	1,297千件 (H29年度)

中南和・東部地域の観光情報発信機能強化(①)		
JAならけんまほろばキッチン内観光案内所の利用客数		
45,511人 (H25年度)	➡ 19.3%	54,300人 (H29年度)

数値で表せない成果

滞在時間の増加に繋げるため、奈良県公認ツアーエキスパート(英語)のスキルアップ研修を行いました。(平成30年度 通訳案内士法に規定する地域通訳案内士育成計画に基づき、奈良県地域通訳案内士(英語・フランス語)を育成する事業を行う予定)
(①)

4. 平成31年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた主な進捗状況＞
観光キャンペーン等の実施により、平成28年の観光入込客数は、平成26年から15.6%増加し4,407万人となり、平成31年目標の4,200万人を上回りました。

＜戦略目標達成に向けた主な進捗状況＞
海外向け情報発信や受け入れ環境の整備等により、平成29年の外国人訪問客数は、平成26年の3.1倍の209万人と大幅に増加し、平成31年目標の140万人を大きく上回りました。

＜奈良県の持っている強み＞
1 3つの世界遺産、国宝・重要文化財指定件数全国第3位。中国や韓国との深い交流の歴史に裏打ちされた「ゆかり」を示す遺産を含めた文化財と豊富な歴史的資源
2 特に平城宮跡から奈良公園エリアは文化的・歴史的資産が集積し、多くの観光客が来訪
3 ミシュラングリーンガイドに観光地「奈良」の三つ星を始め60カ所に星がつく等、奈良の観光地としての魅力が存在
4 四季折々の変化が楽しめる豊かな自然景観
5 東アジア地方政府会合を契機とした東アジア諸国との深いつながり
6 欧米からの観光客は、歴史・文化のある奈良に高い関心

＜奈良県の抱えている弱み＞
7 宿泊施設の施設数・客室数ともに少ない
8 12～2月の宿泊客が少ない
9 県内に常時賑わいを創出している場所が不足
10 奈良らしい土産物が少ない
11 大阪、京都への交通アクセスがよく、通過型(日帰り)観光が中心
12 国内外に、奈良の奥深い魅力、歴史的背景、文化等が充分伝わっていない
13 奈良市エリア外へのアクセスが悪い

＜奈良県への追い風＞
a 「ジャポニスム2018」の開催
b 「歴女」ブーム等、歴史に関心のある消費者層の拡大
c 訪日観光客の増加
d 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催
e ホテル業界での奈良への進出意欲の高まり
f 住宅宿泊事業法の施行による事業者、観光客の関心の高まり
g JRおおさか東線の全線開業(H31年春)

＜奈良県への向かい風＞
h 少子化による児童、生徒数の減少

＜強みで追い風を活かす課題＞
【重要課題】平城宮跡及び県内各地におけるにぎわいの創出や滞在型周遊観光の促進(1,2,3,4,a,b,c,d,g)
【重要課題】首都圏及び海外からの誘客(1,2,3,4,5,6,a,b,c,d,e,f)
・大型MICE誘致の強化(5,6,e)
・JRおおさか東線全線開業を契機とした観光プロモーションの展開(1,2,3,4,g)
・「ジャポニスム2018」でのプロモーション活動(6,a)

＜強みで向かい風を克服する課題＞
旅行商品の造成・セールスの強化(1,2,3,4,6,h)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞
【重要課題】宿泊産業の育成、支援(7,8,9,11,13,e,f)
【重要課題】大宮通り新ホテル・交流拠点の整備(7,8,9,11,c,d,e,f)
【重要課題】奈良市エリア外への宿泊観光客の誘致(7,8,9,13,b,f)
・外国人観光客が周遊滞在しやすい環境の整備(7,12,b,c,d,f)
・オフシーズン対策の推進(イベントの活性化)(8,9,c,d)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞
教育旅行の誘致促進(7,10,11,h)

5. 平成28年度の評価を踏まえ、平成30年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
首都圏及び海外からの誘客(戦略1,2,3)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月～平成31年2月にフランスで実施される「ジャポニスム2018」でプロモーション活動を行い、海外に向けて奈良の魅力の発信を行うこととしました。 ・さらに深く観光客のニーズを調査・分析することで、観光サービスにおける課題を把握し、その解決を図るための施策を実施することで、観光客の満足度の向上を図ることとしました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
平城宮跡及び県内各地におけるにぎわいの創出や滞在型周遊観光の促進(戦略2,4)	<ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡歴史公園「朱雀門ひろば」でのにぎわいを創出します。 ・滞在型観光の取組として、秘宝・秘仏特別開帳をはじめとする「祈りの回廊」事業の充実と県内各地の持続的観光振興に向けた支援を実施します。 ・インバウンド観光戦略ビジョンを策定し、同ビジョンの実現推進に向けた取組を行います。
首都圏及び海外からの誘客(戦略1,2,3)	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県観光キャンペーンを実施します。 ・旅行商品説明会・商談会を実施します。 ・主要駅でのデジタルサイネージ等を活用した情報発信を展開します。 ・奈良まほろば館で様々なプロモーション活動を行います。 ・「ジャポニスム2018」でのプロモーション活動により、奈良の魅力を発信します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
宿泊産業の育成、支援(戦略1,4)	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅宿泊事業者への開業やサービスの向上に対する支援を促進します。 ・特別感のある旅行商品を造成します。 ・多様なチャンネルを通じて旅行会社への積極的なセールスを行います。 ・旅行エージェント(営業、窓口販売、企画担当)の奈良へのアテンドを行います。
大宮通り新ホテル・交流拠点の整備(戦略4)	ホテルを核とする賑わいと交流の拠点整備に向け、コンベンション施設等の整備を促進します。(平成32年春「まちびらき」予定)
奈良市エリア外への宿泊観光客の誘致(戦略1)	地域の特長を活かした周遊型旅行商品を開発し、PRします。

